69
風景図
制作年不詳

玉堂の自然描写は、明治四十年の東京勧業博覧会で一等賞を受けて好評を博した「二日月」、大正五年の「行く春」、大正十三年の帝展出品作「雨後」などの代表作によって、すでに評価の高いものであったが、香淳皇后の絵の指導にあたった昭和十九年以降は、むしろ、奥多摩に隠棲して後の自然と人との温かい関わりが感じられる作品を描き、そうした表現描写を通しての指導の影響が香淳皇后には大きかったであろう。実際、香淳皇后の御絵には温かさが感じられ、多くの人がその点を評価している。自然を描く中に、人の息吹が感じられるものであること、それが生きた画面を創りあげることを、玉堂から受け取られる習作や、言葉から、香淳皇后は学ばれたのではなかろうか。

上掲の二点の「風景図」は、作風から昭和二十年代半ば頃のものかと考えられるが、玉堂が奥多摩時代に盛んに描いた風景で、草木がそよぎ、水が流れ、人々が会話する、のどかな山村の息吹が感じられる。すでに発表されている昭和二十四年頃の作「山村春秋」に近い作品である。吹上御所内のお身近に飾られていた作品であった。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

香淳皇后の御絵と画伯たち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.43

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年三月二十七日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections